

## 小学校道徳教科書のジェンダー視点からの分析(1)

### Analysis of Textbooks on Moral Education for Elementary Schools from a Perspective of Gender (1)

上森さくら・栖原佳乃子

UEMORI, Sakura & SUHARA, Kanoko

本稿の目的は、2018年から小学校で実施されている「特別の教科 道徳」の教科書をジェンダーの視点から検討することであった。そのため、東京書籍、日本文教出版、光村教育図書、学研教育みらいの教科書を対象に、主人公の男女の数、登場人物の男女の数、呼称、写真・挿絵に描かれる男女の数、衣服及びランドセル、両親の登場数、働く大人の数について分析を行った。

この結果、①主人公の男女の数、登場人物の男女の数、写真・挿絵に描かれる男女の数では、男性中心主義、②呼称、衣服及びランドセルには男女二元論、③両親の登場数、働く大人の数では性別役割分業を表象していることが明らかになった。現実社会のデータと比較してみると、男女二元論は社会の多様な性の在り方と乖離しており、性別役割分業は社会の現状を誇張していることも明らかとなった。

先行研究では、学習指導要領での男女二元論と異性愛主義の問題が指摘されていたが、教科書を用いて授業を行うことは、それらに加えて子どもたちに男性中心主義と性別役割分業まで、隠れたカリキュラムで学ばせることを意味する。つまり、「特別の教科 道徳」で教科書が無批判に用いることは、日本におけるジェンダー問題の解決には何ら寄与せず、むしろ悪化させてしまう可能性が高い。日本が批准する女子差別撤廃条約では、第10条で教材用図書及び指導計画を改定することを求めており、早急にこれに注力すべきであると考えられる。

キーワード：「特別の教科 道徳」、教科書、ジェンダー

#### 1. 本稿の目的

1967年に国際連合により女子差別撤廃宣言が採択され、1979年に女子差別撤廃条約が採択された(1981年発効)。第一条には次のように記されている。

「女子に対する差別」とは、性にに基づく区別、排除又は制限であつて、政治的、経済的、社会的、文化的、市民的その他のいかなる分野においても、女子(婚姻をしているかいないかを問わない。)が男女の平等を基礎として人権及び基本的自由を認識し、享有し又は行使することを害し又は無効にする効果又は目的を有するものをいう。

この目的を達成するために、第10条では教育分野について言及し、スポーツを含めて教育機会やその支援について男女同等とするの他、社会的・文化的に形成された性(=ジェンダー)の教育について以下のように要請している。

(c) すべての段階及びあらゆる形態の教育における男女の役割についての定型化された概念の撤廃を、この目的の達成を助長する男女共学その他の種類の教育を奨励することにより、また、特に、教材用図書及び指導計画を改訂すること並びに指導方法を調整することにより行うこと。

日本はこれに1980年に署名、1985年に批准している。つまり、日本の学校教育においては「男女の役割についての定型化された概念の撤廃」が行われなければならないはずである。

しかしながら、教科書に焦点を当ててみると、仲野(1983)が教科書では働く大人の職業について、実際の男女の就業状況よりもさらに性差を誇張していると指摘したのを始めとして、伊東ら(1991)は、各教科の教科書の著者及び登場人物や挿絵の人物など、性別の役割を量的に比較すると圧倒的に男性・男子が多く、教科書の中の女性像・男性像が、伝統的な「女らしさ」「男らしさ」を強調するかたちで描かれていることを明らかにした。残念なことに同様の指摘は、現在に至るまで繰り返し指摘されている(21世紀教育問題研究会、1994；氏原、1997a、1997b；永田、2012；田中、2015；橋本、2015；味呑、2017)

ところで、2018年から小学校で、2019年から中学校で「特別の教科 道徳」が実施されている。道徳は慣習を含むものであり、その社会の中で受け継がれている価値観を前提としている(林、2014)。そうであるならば、道徳は他教科に比べ、意図せずジェンダーを子どもたちに教えている可能性が高く、村瀬(2017)はそれまでの道徳の時間の副教材や教育方法から「性の人権教育を進めるチャンスではなく、むしろ後退につながりかねない」と危惧を示している。残念なことに、現在の学習指導要領では、異性理解について複数回言及しており、友情を深めることに付け加えて異性を理解することを求めるといった構成からは男女は区別されるものとして、さらには異性愛を前提として教育しようとしているとの指摘がある(寺町、2015)。

道徳の時間の副教材については、伊東(1991)によると、男女について安易なステレオタイプの描き方が顕著であった。「特別の教科 道徳」の教科書分析については、橋本(2019)や今関(2019)が中学校教科書に掲載された教材内容について検討しており、性別役割分業が根強く残り、性別を超えた職業選択など子どもたちのロールモデルになるような教材は少ないことが明らかにされている。また、歌川(2019)

は小中学校の教科書において、友情の描かれ方が男女で異なることを明らかにした。

池谷(2018)は、新自由主義の道徳とは自己責任下で人的資本として最適化するよう自己統治することと、非市場的分野に対して社会奉仕することであると述べる。その上で、このような個人を支えるためにジェンダー家族が必要とされていることを指摘し、中学校道徳教科書では、読み物教材の作者・主人公の男女比や家族内の性別役割分業の描き方にそれが反映されていることを明らかにした。

ジェンダーの観点からの道徳教科書分析は緒に就いたばかりであり、特に小学校道徳教科書については、管見の限り、友情の描かれ方以外についての検討がない。よって本稿では、小学校道徳科教科書を対象としてジェンダーの視点から数量的分析及び考察を行う。

## 2. 分析対象・方法

2017年11月の文部科学省発表によると、現在、小学校の道徳教科書採択率は東京書籍・日本文教出版：21.3%、光村図書出版：17.1%、学研教育みらい：14.8%、教育出版：8.6%、光文書院：8.4%、学校図書：5.7%、廣済堂あかつき：2.9%である。この結果から、全国の小学生の74.5%が上位4社の教科書を用い、「特別の教科 道徳」を学習しているということがわかる。そこで、本稿では、上位4社である東京書籍、日本文教出版、光村教育図書、学研教育みらいの教科書の分析を行う。

具体的には、主人公の男女の数、登場人物の男女の数、呼称、写真・挿絵に描かれる男女の数、衣服及びランドセル、両親の登場数、働く大人の数について分析を行う。

主人公の男女の数及び登場人物の男女の数は、「男」または「女」に分け、判別できない／主人公が存在しない場合は数に入れない。また、主人公が人間以外である場合は、一人称や呼称で判別できる場合のみ「男」または「女」に分け、判別できない場合は教えない。

呼称は「なし」(名前だけの呼び捨て)、「さ

ん」、「ちゃん」、「くん」に分ける。この場合、同じ作品内でも他者から呼ばれている呼称を優先し、無い場合は、地の文で使われている呼称を採用する。また、地の文においても書かれていない場合は数に入れない。

写真・挿絵に描かれる男女の数は、主人公及び登場人物の男女の数の分析と同じように、「男」または「女」に分け、判別できない場合は数に入れない。また、人間以外の場合は、一人称や呼称で判別できる場合のみ「男」または「女」に分け、判別できない場合は数に入れない。加えて、同一人物であっても写真や挿絵の衣服が異なる場合は、描かれている回数分を数える。

衣服及びランドセルについては、それが描かれている場合のみ数える。顔のみ及び上半身のみしか描かれておらず、読み取ることができない場合は数に入れない。

両親の登場数は、本文及び写真・挿絵に登場した人数を数える。

働く大人の数は、本文及び写真・挿絵から男女どちらかが読み取れる場合のみ数える。

### 3. 結果

#### (1) 主人公の男女の数

主人公の男女の数を調べた結果は表 1 のようになった。どの出版社のどの学年においても、主人公は女より男が多かった。また、男が主人公の作品は調べた 4 社の全ての教科書において、11 話以上あるのに対し、女が主人公の作品は 10 話以下の教科書が半数を占めていた。同じ教科書において、男女の主人公の作品数の差が一番大きいのは、日本文教出版の 6 年生の 19 話であり、差が一番小さいのは、光村図書出版の 4 年生の 1 話であった。

表 1. 主人公の男女の数 (話)

|    | 男   | 女   |
|----|-----|-----|
| 東書 | 118 | 67  |
| 日文 | 129 | 62  |
| 光村 | 94  | 66  |
| 学研 | 105 | 58  |
| 計  | 446 | 253 |

#### (2) 登場人物の男女の数

##### ①子ども世代

登場人物の子ども世代での男女の数を調べた結果は表 2-1 のようになった。全 24 冊のうち、女が多いのは東京書籍の 6 年生、日本文教出版の 4 年生、学研教育みらいの 6 年生の 3 冊のみであり、それ以外の 21 冊は全て男が多かった。同じ教科書において、差が一番大きかったのは、東京書籍の 4 年生と日本文教出版の 2 年生と 3 年生の 19 人 (3 冊とも男が多い) であり、差が一番小さかったのは、光村図書出版の 2 年生で 1 人 (男が多い) であった。

表 2-1. 登場人物の子どもの男女の数 (人)

|    | 男   | 女   |
|----|-----|-----|
| 東書 | 203 | 149 |
| 日文 | 228 | 172 |
| 光村 | 185 | 157 |
| 学研 | 136 | 108 |
| 計  | 752 | 586 |

##### ②大人世代

登場人物の大人世代での男女の数を調べた結果は表 2-2 のようになった。全 24 冊のうち、男が多いのは 11 冊、女が多いのは 12 冊、男女同数は 1 冊であった。同じ教科書において、登場人物の男女の数の差が一番大きかったのは、学研教育みらいの 6 年生の 35 人 (男が多い) であり、差が一番小さかったのは、日本文教出版の 4 年生で男女同数であった。

表 2-2. 登場人物の大人の男女の数 (人)

|    | 男   | 女   |
|----|-----|-----|
| 東書 | 149 | 161 |
| 日文 | 186 | 140 |
| 光村 | 139 | 115 |
| 学研 | 165 | 131 |
| 計  | 639 | 547 |

#### (3) 呼称

呼称を調べた結果は表 3-1、表 3-2 のようになっ

た。男の呼称については、全24冊のうち、「なし」(名前のみ)が一番多いのは10冊、「さん」が一番多いのは7冊、「くん」が一番多いのは6冊であった。男の呼称に「ちゃん」が使われるのは、あだ名として使われる場合であった。

女の呼称については、全24冊のうち、「なし」(名前のみ)が一番多いのは3冊、「さん」が一番多いのは16冊、「ちゃん」が一番多いのは2冊、「なし」と「さん」が同数で一番多いのは1冊、「さん」と「ちゃん」が同数で一番多いのは2冊、全て同数であったのは1冊であった。

表3-1. 男の呼称別の人数(人)

|    | なし  | さん  | ちゃん | くん  |
|----|-----|-----|-----|-----|
| 東書 | 48  | 50  | 12  | 22  |
| 日文 | 70  | 43  | 9   | 54  |
| 光村 | 49  | 18  | 5   | 45  |
| 学研 | 39  | 42  | 7   | 32  |
| 計  | 206 | 153 | 33  | 153 |

表3-2. 女の呼称別の人数(人)

|    | なし  | さん  | ちゃん | くん |
|----|-----|-----|-----|----|
| 東書 | 29  | 47  | 31  | 0  |
| 日文 | 27  | 81  | 23  | 0  |
| 光村 | 30  | 35  | 26  | 0  |
| 学研 | 20  | 48  | 19  | 0  |
| 計  | 106 | 211 | 99  | 0  |

#### (4) 写真・挿絵に描かれる男女の数

##### ①子ども世代

写真・挿絵に描かれた子ども世代での男女の数を調べた結果は表4-1のようになった。全24冊のうち、女が多いのは東京書籍の6年生、日本文教出版の5年生、光村図書出版の5年生の3冊のみであり、それ以外の21冊は全て男が多かった。差が一番大きかったのは、日本文教出版の6年生の30人(男が多い)であり、差が一番小さかったのは、東京書籍の1年生の1人(男が多い)であった。

表4-1. 写真・挿絵に描かれた子どもの男女の数(人)

|    | 男    | 女    |
|----|------|------|
| 東書 | 601  | 582  |
| 日文 | 662  | 563  |
| 光村 | 513  | 454  |
| 学研 | 345  | 263  |
| 計  | 2121 | 1862 |

##### ②大人世代

写真・挿絵に描かれた子どもの男女の数を調べた結果は表4-2のようになった。全24冊のうち、男が多いのは14冊、女が多いのは8冊、男女同数は2冊であった。同じ教科書において、写真・挿絵に描かれる男女の数の差が一番大きかったのは、学研教育みらいの6年生の61人(男が多い)であり、差が一番小さかったのは、東京書籍の1年生と学研教育みらいの4年生の男女同数であった。

表4-2. 写真・挿絵に描かれた大人の男女の数(人)

|    | 男    | 女   |
|----|------|-----|
| 東書 | 255  | 230 |
| 日文 | 336  | 265 |
| 光村 | 249  | 178 |
| 学研 | 245  | 206 |
| 計  | 1085 | 879 |

#### (5) 衣服及びランドセル

##### ①女の服装(スカートもしくはズボン)

女の服装を調べた結果は表5-1のようになった。全24冊のうち、スカートが多いのは19冊、ズボンが多いのは5冊であった。また、スカートとズボンの数の差が一番大きかったのは、東京書籍の6年生の34人(スカートが多い)であり、差が一番小さかったのは、学研教育みらいの2年生と5年生と6年生の2人(6年生のみズボンが多く、2年生と5年生はスカートが多い)であった。また、挿絵で描かれている人

物はスカートが多かったが、写真ではズボンを履いている人物も多かった。

表 5-1. 女の服装別の人数 (人)

|    | スカート | ズボン | 計    |
|----|------|-----|------|
| 東書 | 167  | 125 | 292  |
| 日文 | 212  | 110 | 322  |
| 光村 | 169  | 145 | 314  |
| 学研 | 99   | 54  | 153  |
| 計  | 647  | 434 | 1081 |

## ②衣服の色

男女の服の色を調べた結果は表 5-2-1、表 5-2-2 のようになった。男の服の色は、どの出版社のどの学年においても青が多かった。また、青、緑の割合が女より多かった。それに対し女の服の色は、どの出版社のどの学年においても赤・桃が多かった。また、赤・桃、黄の割合が男より多かった。これらから、男は寒色系の色、女は暖色系の色が多いということがわかった。

表 5-2-1. 男の服の色別の人数 (人)

|    | 青    | 緑   | 赤・桃 | 黄   | その他 |
|----|------|-----|-----|-----|-----|
| 東書 | 340  | 112 | 80  | 41  | 158 |
| 日文 | 340  | 129 | 97  | 78  | 193 |
| 光村 | 302  | 93  | 60  | 47  | 118 |
| 学研 | 236  | 59  | 32  | 33  | 62  |
| 計  | 1218 | 393 | 269 | 199 | 531 |

表 5-2-2. 女の服の色別の人数 (人)

|    | 青   | 緑   | 赤・桃  | 黄   | その他 |
|----|-----|-----|------|-----|-----|
| 東書 | 119 | 80  | 302  | 75  | 166 |
| 日文 | 136 | 66  | 270  | 77  | 213 |
| 光村 | 106 | 55  | 219  | 67  | 109 |
| 学研 | 45  | 28  | 214  | 30  | 75  |
| 計  | 406 | 229 | 1005 | 249 | 563 |

## ③ランドセルの色

男女のランドセルの色を出版社別に調べた結果は表 5-3-1、表 5-3-2 のようになった。男

のランドセルの色は、どの出版社のどの学年においても黒が多かった。それに対し女のランドセルの色は、どの出版社のどの学年においても赤が多かった。そして、赤は女のランドセルにしか描かれていない色であった。

東京書籍と日本文教出版は、他の 2 つの出版社に比べて色のバリエーションが豊富であり、男の緑・紫・黄・橙及び女の茶・青・黄・橙・黒のように、他の 2 社では描かれていない色が使われていた。

表 5-3-1. 男のランドセルの色別の人数 (人)

|    | 赤 | 黒  | 青  | 水色 | その他 |
|----|---|----|----|----|-----|
| 東書 | 0 | 24 | 10 | 0  | 17  |
| 日文 | 0 | 43 | 17 | 2  | 12  |
| 光村 | 0 | 24 | 11 | 0  | 2   |
| 学研 | 0 | 20 | 4  | 1  | 2   |

表 5-3-2. 女のランドセルの色別の人数 (人)

|    | 赤  | 黒 | 青 | 水色 | その他 |
|----|----|---|---|----|-----|
| 東書 | 32 | 0 | 4 | 6  | 8   |
| 日文 | 36 | 1 | 0 | 5  | 5   |
| 光村 | 30 | 0 | 0 | 4  | 2   |
| 学研 | 31 | 0 | 0 | 3  | 0   |

## (6) 両親の登場数

両親の登場数を出版社別に調べた結果は表 6 のようになった。両親の登場数は、父親より母親がどの出版社も倍近い差が多かった。

表 6. 両親の登場数 (人)

|    | 母   | 父   |
|----|-----|-----|
| 東書 | 96  | 52  |
| 日文 | 87  | 42  |
| 光村 | 60  | 39  |
| 学研 | 81  | 43  |
| 計  | 324 | 176 |

## (7) 働く大人の数

働く大人の数を出社別に調べた結果は表 7

のようになった。どの出版社でも女より男が多かったが、東京書籍を除いては、働く男の数は女の2倍以上であり、特に、日本文教出版で登場する働く男の大人の数は、女の3倍以上であった。

表7. 働く大人の数(人)

|    | 男   | 女   |
|----|-----|-----|
| 東書 | 95  | 49  |
| 日文 | 129 | 41  |
| 光村 | 91  | 41  |
| 学研 | 84  | 41  |
| 計  | 399 | 172 |

#### 4. 考察

##### (1) 主人公の男女の数

主人公はどの出版社、学年においても男が多いという結果から、「主役が男」という男性中心主義が教科書にも反映されているということを読み取ることができる。主人公の数を男女同数にすれば、ジェンダー的に問題がないと言えるとは限らない。しかし、主人公の男女の数に大きな差があることは事実であり、子どもたちに基本的に「主役は男」という固定的な考え方を持たせる恐れがあるということは念頭に置いておかねばならない。このような固定観念は学校行事などの際に、子どもたち自身で「男子が主役」という概念を再生産してしまうことにもつながる可能性がある。そうなってしまうと、男子は「主役(もしくはリーダー)にならないといけない」という周りの雰囲気生きづらさを感じ、女子は「主役(もしくはリーダー)になるのは奇妙だと見られるかもしれない」という恐れから「主役・リーダーをしたくてもできない」という生きづらさを感じる可能性がある。

##### (2) 登場人物の男女の数

###### ①子ども世代

子ども世代の登場人物についても、全24冊中21冊で男の数が多かった。その理由は、主

人公を含め、男子中心の物語が教科書には多いことが理由であると考え。この結果は、主人公の男女数と同じように、男性中心主義の再生産に寄与していると考え。

###### ②大人世代

大人世代の登場人物数は、子ども世代に比べて男女差が小さかった。これは、母親の登場数が父親に比べて圧倒的に多いことが関係すると思われる。それでも、男性の数の方が多いということは、家庭の外で活躍できるのは男性の方が多いということを暗に示し、子どもから大人に至るまで基本的に活躍するのは男性であるという男性中心主義を形成するのに寄与する隠れたカリキュラムとなっている。

###### (3) 呼称

男女の呼称は、同じ作品内でも男女で呼称の使い分けが見られた。呼称の使い分けが特に問題となるのは、身体の性と心の性が異なる性的マイノリティの子どもたちに生きづらさを感じさせる一つの要因になるためである。文部科学省は2015年に児童生徒課長通知「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」により、学校における性同一性障害の子どもについて、本人が希望する呼称を用いる工夫をするよう学校に求めたことから配慮すべき事項であることは明らかである。

2017年に参議院常任委員会調査室・特別調査室では日本でLGBTに該当する人は約8%と報告されており、1学級に該当する子どもは必ずいるという認識に立つべきだろう。それにも関わらず、教科書が生物的性によって男女を呼称で区分することは、性的マイノリティの存在を無視することを意味している。これは、学習指導要領で道徳の目標に記されている「物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」を阻害することにもなっていると考え。

#### (4) 写真・挿絵に描かれる男女の数

##### ①子ども世代

子ども世代の写真・挿絵に描かれる男女の数は登場人物の数に準じているため、当然男子が多い結果になったと考えられる。よって、写真・挿絵でも男性中心主義が再生産されていると考える。

##### ②大人世代

子ども世代の写真・挿絵が順当に登場人物の数に準じていたのに対して、大人世代では、登場人物で女性の方が多かった東京書籍で男性の写真・挿絵の方が多という逆転が起こっており、結果として、分析対象とした全教科書会社で男性の写真・挿絵の方が多ということになった。これは、描かれる対象となる女性は母親が多いのに対して、男性は父親としてよりも職業人として描かれることが多いため、写真・挿絵として登場する回数が増えたのではないかと推測する。

#### (5) 衣服及びランドセル

##### ①女の服装（スカートもしくはズボン）

女の服装は、ズボンに比べてスカートが多かった。特に挿絵で描かれている人物はスカートが多かったが、写真ではズボンを履いている人物も多く描かれていた。このことから、実際よりも挿絵において「女らしさ」が誇張して描かれていると考える。

服装の選択における不自由さも、身体の性と心の性が異なる性的マイノリティの子どもたちに生きづらさを感じさせる一つの要因になることは、先述の「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」でも言及されている。呼称と同じように生物的性によって固定観念が形成されないよう配慮が必要とされる。

##### ②衣服の色

教科書の写真・挿絵で確認された服の色は、男性・男子は寒色系、女性・女子は暖色系に偏

りがあった。しかしながら、学研教育総合研究所の小学生白書 Web 版（2018 年 9 月調査）によると、小学生の好きな色（複数回答可）は、男子は 1 位：青(61.7%)、2 位：赤(22.8%)、3 位：緑(20.2%)、4 位：水色(17.8%)、5 位：黒(17.3%)であり、女子は 1 位：桃(46.2%)、2 位：水色(45.3%)、3 位：紫(24.2%)、4 位：青(22.0%)、5 位：黄(13.2%)であった。比較してみると、女子より男子の方が赤が好きな色である割合が高いのにも関わらず、教科書では男性・男子より女性・女子が赤色の服を着用するものとして描かれている数が圧倒的に多い。好きな色と着る服の色が同じであるとは限らないが、このような子どもたちの好きな色と教科書に描かれている服の色のズレは、「自分は赤（青）が好きなのに赤（青）は女（男）の色だから、男（女）の自分は着てはいけないのではないか」と子どもに考えさせてしまうような隠れたカリキュラムになりえる。教科書に描かれる人物の服の色を全ての子どもの好きな色/嫌いな色に合わせることは不可能であるが、男女で使われる色に大きな偏りがないようにすべきである。

##### ③ランドセルの色

教科書で描かれているランドセルの色は、男は黒、女は赤が多かった。しかし、近年はランドセルの色のバリエーションが増えている。実際にランドセル売り場にもカラフルなランドセルが並んでおり、街で見かける子どもたちも様々な色のランドセルを背負っている。ランドセル業界大手のセイバンの公式サイトによると、2019 年度の男の子のランドセルの人気ランキング上位 5 位は全て黒系でありやはり「男は黒」という考えが根強いことがわかるが、女の子のランドセルの人気ランキングは、1 位紫、2 位赤、3 位水色と様々な色が人気であることがわかる。しかし、教科書内ではいまだに男は黒、女は赤で描かれることが圧倒的に多く、これらは誇張して描かれていると考えてよいだろう。

## (6) 両親の登場数

両親の登場数は、父親より母親が多かった。特に、子どもとの関わりの中で母親が登場することが多かった。現在の日本においては未だ育児が多く、多くの家庭で母親中心に行われているのは事実であるが、性的役割分業が一般的であるという隠れたカリキュラムを提供しているという点で問題であると指摘せざるをえない。

また、このような描写は家庭に母親がいない子どもたちへの配慮が欠けているのではないだろうか。厚生労働省の国民生活基礎調査(2018年)によると、児童のいる世帯では、ひとり親世帯が6.8%におよぶ。このように両親2人と子どもという構成の家庭だけではない中、母親だけが教科書に取り上げられていると、母親がいない子どもたちは、「自分の家族はおかしいのかな」と思ってしまうことにつながる恐れがある。

## (7) 働く大人の数

働く大人の数は、どの出版社においても女より男が2倍以上多かった。しかしながら、総務省統計局の労働力調査(2018)によると、正規・非正規を合わせた職業人口は、男が3008万人、女が2588万人であり、差は420万人である。これは現状の男女差を誇張したものであり、先述の家庭内の母親の描写の圧倒的な多さと共に、性別役割分業についての隠れたカリキュラムを提供している。

## おわりに

本稿の目的は、2018年から小学校で実施されている「特別の教科 道徳」の教科書をジェンダーの視点から検討することであった。そのため、東京書籍、日本文教出版、光村教育図書、学研教育みらいの4社の教科書を対象に、主人公の男女の数、登場人物の男女の数、呼称、写真・挿絵に描かれる男女の数、衣服及びランドセル、両親の登場数、働く大人の数について分析を行った。

分析の結果、①主人公の男女の数、登場人物

の男女の数、写真・挿絵に描かれる男女の数においては、男性中心主義、②呼称、衣服及びランドセルには男女二元論、③両親の登場数、働く大人の数には性別役割分業が表象されていることが明らかになった。さらに、現実社会のデータと比較してみると、教科書で描かれている男女二元論は社会の多様な性の在り方と乖離しており、性別役割分業は社会の現状を誇張していることも明らかとなった。

寺町(2018)が、学習指導要領において、男女二元論と異性愛主義が前提となっていることを明らかにしていることは先に述べたが、「異性についての理解を深め」とはどういうことかまでは学習指導要領上では示されていない。学習指導要領解説でも「根本的には同性間におけるものと同様、互いの人格の尊重を基盤としている。異性に対しても、信頼を基にして、正しい理解と友情を育て、互いのよさを認め、学び合い、支え合いながらよい関係を築こうとすることに配慮して指導することが大切である」と記載されているのみである。学習指導要領での道徳の徳目主義とそれに対応する教科書構成については、ジェンダー問題に限らず国家(政治権力)の介入を容易にした点で批判されている(佐貫、2015)。本研究では、ジェンダー問題を孕んだ徳目に対応した読み物教材ではなくとも、子どもたちは男女二元論、異性愛主義に加えて、男性中心主義と性別役割分業まで隠れたカリキュラムで学ぶことになってしまうことが明らかとなった。「特別の教科道徳」で教科書を無批判に用いることは、日本におけるジェンダー問題の解決には何ら寄与せず、むしろ悪化させてしまう可能性が高い。女子差別撤廃条約を批准している国としては、改善に注力すべきであると考えられる。

以上、本稿では「特別の教科 道徳」の教科書を主に量的データから分析してきた。次稿では、教科書における男女二元論や性別役割分業がどのようなキャラクターによって表象されているかについて明らかにしたい。



## 【註・参考文献】

- 池谷壽夫 (2018) 「中学校『特別の教科 道徳』教科書の問題性」『教育』871号、13-20頁。
- 伊東良徳他 (1991) 『教科書の中の男女差別』明石書店。
- 伊東良徳 (1991) 「小学校教科書の現状 道徳」同上書、88-122頁。
- 今関和子 (2019) 「『特別の教科 道徳』は、弱者の人権を尊重しているか—女性の人権(ジェンダー)の視点に立って教材を分析する」大和久勝他『いじめ・ジェンダーと道徳教科書』クリエイツかもがわ、103-160頁。
- 氏原陽子 (1997a) 「教科書におけるジェンダーメッセージ (I) : 中学校社会科・公民的分野の数量的分析」『名古屋大学教育学部紀要教育学』44巻1号、91-103頁。
- 氏原陽子 (1997b) 「教科書におけるジェンダーメッセージ (II) : 中学校社会科・公民的分野の質的分析」『名古屋大学教育学部紀要教育学』44巻2号、95-106頁。
- 歌川光一 (2019) 「中学校道徳教科書の読み物にみる 友情のジェンダー表象」『昭和女子大学女性文化研究所紀要』46号、97-105頁。
- 佐貫浩 (2015) 『道徳性の教育をどう進めるか—道徳の「教科化」批判』新日本出版。
- 田中和江 (2015) 「高等学校家庭科教科書のジェンダー視点からの分析」『教育学研究室紀要 : 「教育とジェンダー」研究』12号、135-150頁。
- 寺町晋哉 (2018) 「ジェンダーの視点からみた新学習指導要領」『宮崎公立大学人文学部紀要』25巻1号、105-122頁。
- 永田麻詠 (2012) 「小学校国語教科書に見る隠れたカリキュラムの考察 : ジェンダーおよびクィアの観点から」『国語教育思想研究』4号、37-46頁。
- 仲野陽子 (1983) 「学校の中の性差別」武田京子・木村栄・田中喜美子『主婦はつくられる』汐文社、93-118頁。
- 21世紀教育問題研究会編 (1994) 『小学校全教科書の分析 自立と共生の視点から』労働教育センター、131-147頁。
- 橋本紀子 (2015) 「中学校社会科公民的分野教科書のジェンダー視点からの分析」『教育学研究室紀要 : 「教育とジェンダー」研究』12号、114-134頁。
- 橋本紀子 (2019) 「道徳教育におけるジェンダー・セクシュアリティの問題—中学校『特別の教科 道徳』の教科書分析を中心に」教育科学研究会「道徳と教育」部会編『道徳教育の批判と創造—社会転換期を拓く』エイデル研究、100-120頁。
- 林泰成 (2014) 「ジェンダーと道徳・教育」松下良平編『新・教職課程シリーズ 道徳教育論』一藝社、68-79頁。
- 味呑文絵 (2017) 「小学校国語科教科書の中に見るジェンダー」『奈良教育大学国文 : 研究と教育』40巻、44-32頁。
- 村瀬桃子 (2017) 「道徳の教科化に関する覚え書き—性の人権教育のゆくえ—」『米沢国語国文』46号、55-65頁。